



214号 発行所/ 下関市長府外浦町1番1号 国立病院機構 関門医療センター 発行責任者/ 病院長 林 弘人 印刷/(株)アートネクスト

2020年1月15日、日本で初めて新型コロナウイルス感染症の患者さんが報告されて9か月が経過し、いまだ感染報告は全国で増え続けています。4月7日に7都道府県に対して緊急事態宣言が発出、4月16日には全都道府県にも宣言され5月中旬にはいったん感染者数が減少したものの、5月25日緊急事態宣言の解除があり、6月以降は再び増加に転じています。従来のコロナウイルス(普通の風邪の原因となるコロナウイルス)の伝播モデルから推測すると、冬季にはさらなる流行が起ることが予測され、秋以降のインフルエンザ流行期に重なって重大な事態になる恐れもあります。これまでにインフルエンザと新型コロナウイルス感染症が同時に感染した症例の報告もありますが、より症状が重くなるか否かについてはっきりとした傾向はないようです。一方インフルエンザに関しては、報道でも取り上げられて



2020年シーズンのインフルエンザ流行は例年に比べてかなり小規模でした。これは日本だけでなく世界的な傾向です。新型コロナウイルス感染症予防のためのマスク装着や手指衛生がインフルエンザ予防にも有効であった、という理由のほか、新型コロナウイルスの出現がインフルエンザウイルスに干渉してインフルエンザウイルス蔓延を障害した可能性も考えられています。しかし今年の冬にインフルエンザと新型コロナウイルス感染症の同時流行が起きるのか、もしくは干渉されるのかは未知です。今回、コロナ禍における

インフルエンザ予防についてですが、いわゆる3密(密閉、密集、密着)を避け、外出時にはマスクを着用する、手指衛生(外出から帰ってきたとき、食事前、トイレのあと)の徹底など新型コロナウイルス感染症予防がそのままインフルエンザ予防にもつながると言えそうです。そして特にインフルエンザワクチン接種がインフルエンザ予防に重要と考えられています。厚生労働省は今シーズンのインフルエンザワクチンについて、成人の用量に換算しておよそ6300万人分を確保できる見込みだとしています。これは、昨シーズンに使用された量を12%上回る量だそうです。65歳以上の高齢者、12歳以上の糖尿病、喘息または慢性肺疾患、心疾患などの基礎疾患がある方などは接種を強く推奨されています。当センターでは10月19日から接種可能となります。インフルエンザワクチン予防接種をぜひ



職員のインフルエンザ予防接種

対するワクチンは開発段階であり、コロナ禍はまだ続くことが予測されます。人々は接触を避けなければならず、画館には入場制限があり、大規模な集会ができないので、コンサートなどもなくなり、入院患者さんの外出外泊も禁止されています。この生活は憂鬱ですが、世界中で、日々新型コロナウイルス感染症の治療や、感染対策についての研究は進んでいます。克服の日はずら来ると信じて今は待ちたいと思います。



糖尿病・内分泌科医師 感染制御チーム医師 まつい くみこ 松井 久未子

コロナ禍に係るインフルエンザ対策

外来診療担当医一覧表

2020年10月1日現在

Table with columns for Group Name, Department Name, Day, and Doctor Name. Includes sections for General, Circulatory, Cancer, Longevity, and Maternity/Obstetrics.

〒752-8510 下関市長府外浦町1番1号 国立病院機構 関門医療センター 診療受付時間: 午前8:30~11:30 午後(各診療科外来にお問い合わせください) ※休診日: 土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始(12/29~1/3) ※臨時休診は各外来窓口に表示





写真①



写真②



写真③

医療機器における 新型コロナウイルス対策



臨床工学技士
みやた かなこ
宮田 香菜子

皆さん、突然ですが病院内には
たくさん医療機器が使われている
のをご存じですか。身近なもの
例えば、点滴を行うときに使う
輸液ポンプやシリンジポンプなどは
見たことがある方もいらっしゃるか
と思います。今回は医療機器の中
でも、
新型コロナウイルス感染の治療で
使う機器や、それらの機器で行っ

ている感染対策をご紹介します。
まずは、人工呼吸器についてです。
人工呼吸器は新型コロナウイルス
感染後、肺の機能が悪化してしま
自力での呼吸が難しくなったとき
呼吸を助けてくれる機器です。当
センターでは新型コロナウイルス流
行に伴い、新たに人工呼吸器を2
追加して備えています(写真①)。
そして人工呼吸器をつけている
方は、マスクなどでウイルスを外
に出さないようにすることができ
せん。そのため、代わりに吐き出す
息が機器を通して外に出ていか
ないように、ウイルスを捕えてく
るフィルターを入れることで感
染対策を行っています(写真②)。

また、人工呼吸器の補助だけでは
呼吸が十分に行えなくなった際
には、ECMO(体外式膜型人工肺)と
呼ばれる機器を使用できるよう
準備を行っています(写真③)。
ECMOは肺の働きである血液に
酸素を取り込むという作業を、血
液を体外に出して直接行います。
このほかにも、新型コロナウイルス
に感染された方の心拍数や呼吸
数などに異常がないかを病室の
外から見るように、新型コロナウイルス
に対する治療の準備と、その
際に感染を広げることのないよう
に医療機器の面からも日々対策
を行っています。

寄贈の御礼

この度、日新運輸工業様の寄付型私募債の発行に伴い、
受託した山口銀行様より当センターへ40万円をご寄付
いただきました。贈呈式では、松浦秀子社長より、「地域の健康
を支えていただき感謝している」とごあいさついただき、
山口銀行有川和義長府支店長立会いの下、目録を受け取りました。

医療現場の現状をご理解いただき、職員一同深く感謝
しております。地域の期待に応えられるよう、新型コロナウイルス
の感染拡大防止に活用させていただきます。



当センターの 新型コロナウイルス 感染拡大防止対策



感染管理認定看護師
みむら ゆか
三村 由佳



① 来院される方への感染対策

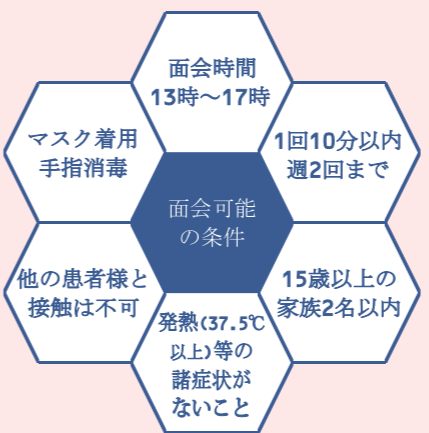
病院正面玄関の開錠を8時30分とさせていただきます。また、患者さん
付き添いの方にも、来院時にはアルコールでの手指衛生、マスクの着用、体温測定や問診を行いご協力を頂いています。外来待合では、患者

新型コロナウイルスの主な感染経路は飛沫・接触感染です。感染拡大防止のため、当センターでさまざまな感染対策を行っています。今回はその中から、いくつかの対策をご紹介します。

皆さん同士の距離が保てるような椅子の配置等、工夫を行っています。また、発熱者や流行地域からの来院者専用の特別ブースを設置し、他の外来患者さんとの接触を防ぐよう配慮しています。

② 面会への対策

4月より、入院患者さんへの面会を制限させて頂いています。全面禁止から一部面会制限の緩和など、地域の流行状況に応じて対応しておりますので、ホームページ等で確認していただけたらと思います。また、面会の際にも、マスクの着用、体温測定や問診の記載を行うなどのご協力をお願いいたします。面会を制限すること、患者さん、ご家族にとつてはご不安なことがあると思います。ご心配なことがありましたら、お声をかけて下さい。



③ 職員の感染対策

病院玄関や外来カウンターなど、飛沫防止のための透明なパーテーションをさせていただいています。また研修会等を行い、手指衛生や正しい防護服の着脱等を再教育いたしました。
患者さんご家族の方には大変ご不便をおかけしておりますが、地域の医療を守るためにも、今後チーム関門で感染対策に取り組みで参りますので、御理解と御協力をお願いいたします。

